

2020年11月27日

国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康  
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一  
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也  
白川の安全と立野ダムを考える白川流域住民連絡会 共同代表 松本久 他 4 名  
代表連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康

## 白川の流域治水に関する要請書

### 白川の流域治水では立野ダム建設は中止し、水田の保全を採用すること

報道によると、9月30日に「第1回 白川・緑川水系流域治水協議会」が開催されたとのこと。流域治水とは、流域のあらゆる力を集めて豪雨災害を防ぐ、という考え方です。しかし、白川・緑川水系の流域治水協議会のメンバーは流域市町村長と熊本県職員、国土交通省職員だけであり、流域の住民や専門家、学識者などは含まれていません。流域のあらゆる力を集めるというのならば、流域住民をはじめとする流域の人材もメンバーに加えるべきです。

水田の保全案（田んぼの貯水機能の活用）は、国土交通省が7月6日に公表した流域治水の具体策にも取り上げられ、球磨川の流域治水でも打ち出されていますが、同省ホームページに掲載されていた「第1回 白川・緑川水系流域治水協議会」の資料を見ると、水田の保全案は全く除外されています。

国土交通省が2012年の「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際、立野ダム以外に14の治水対策案を検討し、提示していました。特に、治水対策案⑨「中流部遊水地など」、治水対策案⑩「黒川遊水地（地役権方式）など」、治水対策案⑫「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全など」、治水対策案⑬「輪中堤＋遊水機能を有する土地の保全など」、治水対策案⑭「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全＋土地利用規制など」は、まさに流域治水の考え方そのものを8年も前に白川で具現化したものです。それらをすべて、今回の流域治水協議会でも検討すべきです。

特に水田の保全案では、流域の水田55平方キロに20cm雨水をため込むように畦を高くするだけで、約1100万m<sup>3</sup>の容量があり、それだけで立野ダムの総貯水量1000万m<sup>3</sup>を超えます。さらに流域の水田は「ざる田」と言われるように高い浸透能力を持つため、それ以上の水害防止効果があり、また熊本の地下水涵養にもつながります。水田の保全は立野ダム建設と比べ、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げるすることができます。流域治水では、地質や治水の問題で危険性が指摘されてきた立野ダム建設は中止し、その代わりに水田の保全を採用すべきです。ここに、下記3点を要請します。

#### 記

1. 白川の流域治水協議会のメンバーに、流域住民や専門家、学識者などをはじめとする流域の人材も加えること。
2. 国土交通省が2012年の「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際の、14の治水対策案をすべて、今回の流域治水協議会でも検討すること。
3. 白川の流域治水では立野ダム建設を中止し、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げるができる水田の保全を採用すること。

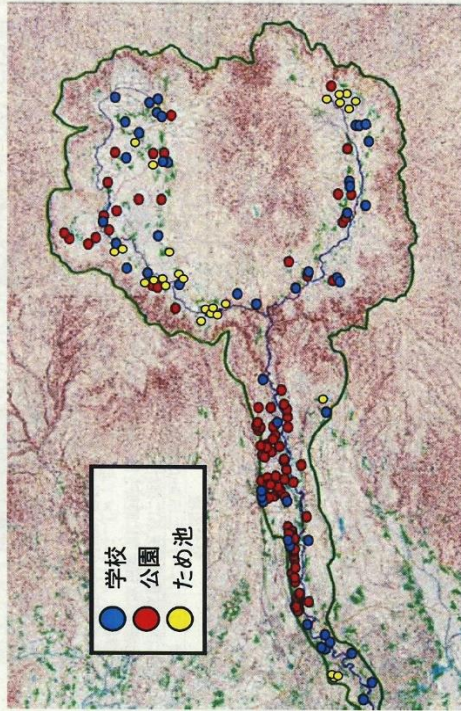
以上



# 治水対策案⑫ 河道の掘削＋雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全 (機能向上) (3/3)

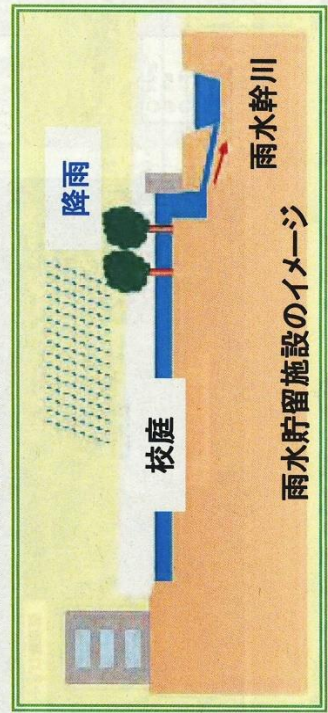
## 流域内の学校・公園に雨水貯留施設を設置

### ため池への雨水貯留

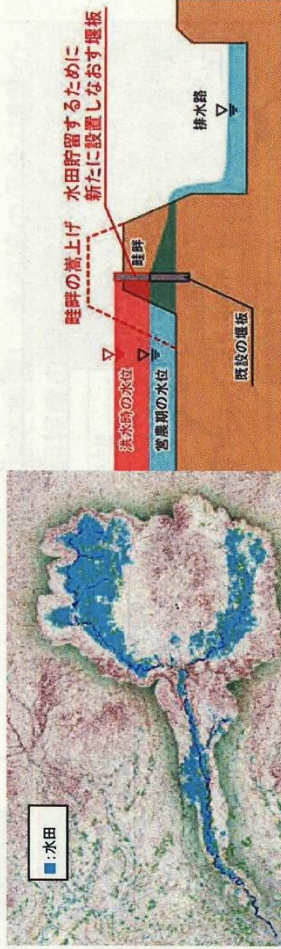


	箇所数
学校(校庭)	48
公園	104
ため池	27

※学校: 小学校、中学校、高等学校、大学  
 ※公園: 市町村提供資料より  
 ※ため池: 市町村提供資料より



## 流域内の水田の畦畔の嵩上げ



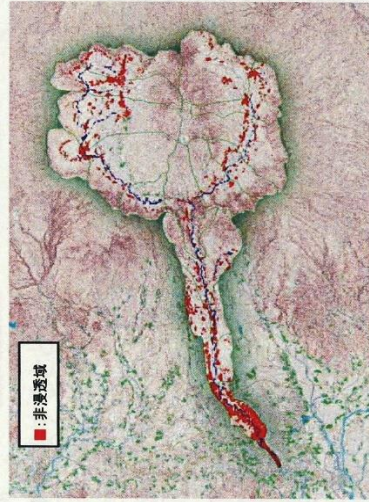
### 水田等の保全(機能の向上)のイメージ

◆白川流域における水田  

利用可能面積	対策面積	備考
55km <sup>2</sup>	55km <sup>2</sup>	約20千枚

 ※水田面積は国土数値情報を基に推計。  
 ※利用可能面積は、水田面積に畦畔を除いた本地率と作付け率を乗じて推計。  
 ※水田枚数は代表区域を設定し推計。

## 流域内の宅地部に浸透マスを設置



◆白川流域における宅地  

宅地×建坪率40%計	対策面積	備考
10.95km <sup>2</sup>	10.95km <sup>2</sup>	約84千戸

 ※宅地面積は国土数値情報を基に推計。



### 浸透マスのイメージ